

# ぬくもり

発行元 可児市人権啓発センター  
 可児市下恵士5188-1  
 (可児市総合会館分室内)  
 電話 (0574) 83-7990  
 FAX (0574) 83-7990

—可児市人権啓発センターだより—



人権尊重の大切さを説かれる桑原律先生 [平成12年11月20日(月) 分室にて]

## 人権の世紀の開幕にあたって

- ◆「人が人を差別する」そんな時代を越えて一歩一歩前進し成果を上げていく人権啓発活動。過去、現在に至り同和問題に取り組まれた先人活動家の努力により、大きく社会が動かされてこの活動が一層重要視されるようになりました。人間が人間らしく生きられる世の中、当たり前のようで何と難しいことかと日々考えさせられます。
- ◆可児市人権啓発センターの活動に参加してやがて三年になりますが、推進員の方々と語り合い・研修会・講演会・街頭啓発活動等に参加してきました。日々の生活で起る「人権問題」「女性、老人への差別」「障害者に対する偏見」「いじめ問題」等数え上げればきりがありませんが、心豊かで住みよい都市づくりには、教育・啓発活動は大切であると考えます。
- ◆人権啓発推進員の活動は「差別を無くす花」の種播き作業です。心ある方々の水やり、雑草取りなど手入れ(ご協力)の作業は、人権の花を咲かせるのに不可欠の要素です。思いやりと心のこもった言葉が人の心を打ち、お互いを信頼し助け合える、そのような都市づくりができたらと願っています。「人権を守る」ということは周りの人達や相手の事も考えることではないでしょうか。
- ◆二十一世紀を迎え、益々人権尊重が重視される時代に入りました。「人間が人間らしく生きる」を大切にして、あの人達(推進員)と「会えてよかった」「話し合えてよかった」「もう一度会いたい」と言って頂けるような活動を目指し中立・公平・平等の原則に基づいた可児市人権啓発センターの活動に積極的に参加したいと考えます。

人権啓発推進員代表 山口 征雄



2年度

# 権意識調査

## 果（抜粋）

### 調査の主意

- ①「人権教育のための国連10年」（1995～2004年）の節目に当たり「人権に関する主要課題」の中から9項目を選び調査し、これからの人権教育・啓発活動の基礎資料に供する。
- ②過年度の結果と対比することにより、人権教育・啓発活動のあり方を検証する。

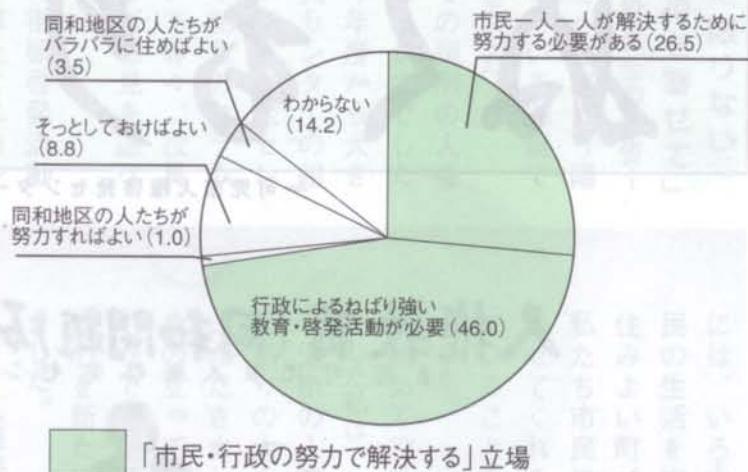


集計に忙しい推進員のみなさん

長尾 雅子さん・内野登代子さん  
 渡辺 町子さん・可児 徳子さん  
 天野 弘子さん 以上5名

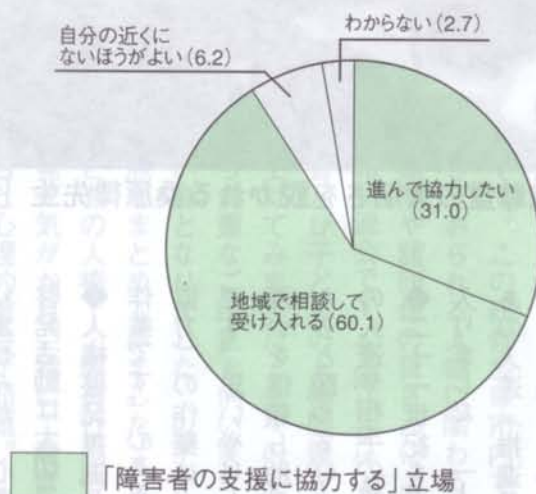
### ☆同和問題の解決に必要なことは？

〔質問〕あなたは同和問題を解決するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。



### ☆障害者への支援活動などあなたの考えは？

〔質問〕かりにあなたの近所に障害者の支援施設が設置されることになったとき、あなたはどのように考えますか。



アイヌ民族の項目では、多数が歴史・文化の尊重を問題とし、人としての差別を気にしない回答で好ましいことではないだろう。同様に、他国籍の人に対しても異民族というよりは個人の人格として考える回答が多かった。また、エイズについては、認識も深く、前向きでとらえている人が多かった。（二十代で、もう少し積極的に考えられることを期待したいが…）更生保護活動に関しては、参加をためらうことはあっても、活動に対する評価は十分されている。少

推進員 可児 徳子

窓越しの小春の日ざしの中、紙を捲り筆記する音、計算機を叩く音のみ聞こえて、どんどん集計表が埋められていった。アンケートの回収率の高かったのは、周囲を眺めるゆとりが多くなった年代なのか、五十代、四十代であった。

今回は、アイヌの人々の人権尊重・文化保護や、エイズ患者・HIV感染者に対するもの、更生保護活動についての設問が加えられていた。

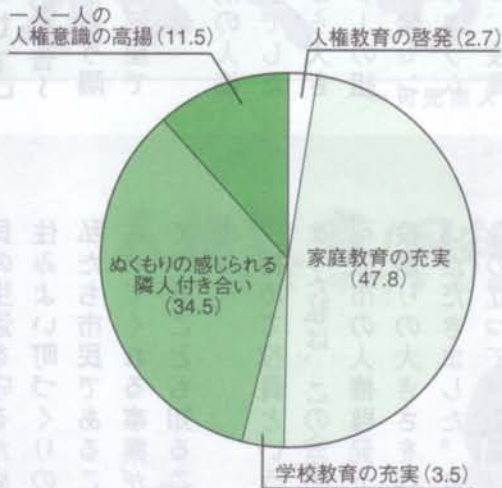


# 可児市の人

## 集計結

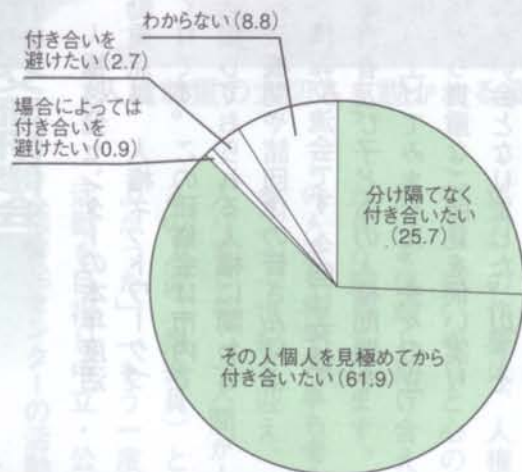
### ☆「人づくり」に大切なことは？

〔質問〕可児市では「心豊かな活力とうるおいのある住みよい都市(まち)可児」をめざして行政が進められています。市民の一人として「人づくり」に大切



### ☆外国の方をどのように見えていますか。

〔質問〕かりに、あなたの近所のアパートに外国の方が住むことになった場合あなたはどのように考えますか。



「付き合いたい」立場

#### ※詳細について

質問項目は全部で9、除いた項目(女性・子どもの人権等)についての詳細は、人権啓発コラム集「心のともしび」(3月発行予定)で取り上げる予定です。

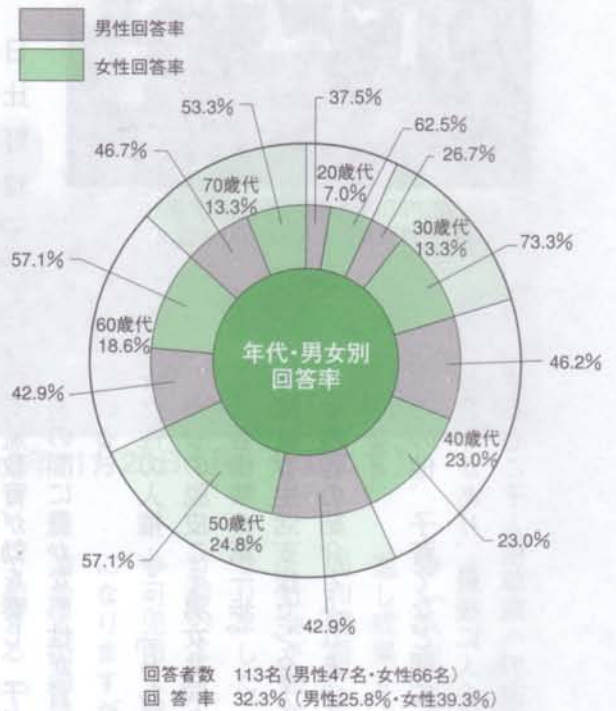
#### ※人権教育のための国連10年とは

1994年12月の国連総会で、人権という普遍的文化を世界中に構築するために決議された取り組み。

### 調査の概要

- ①対象及び人数 市民350人(男182人女168人)
- ②回収率 32.3%(男25.8%女39.3%)
- ③実施期間 H12.8.14~8.31
- ④方法 ・等間隔無作為抽選出法  
・回収方法:郵送

※( )内の数:%



し話は違うが、昨今のニュースで知られる幼児の虐待・餓死事件等と言われる周囲の人々の積極的な携わりも必要なこともあろうかと思われる。  
こうあるべき・そうありたいという心理からか模範的な答がやゝ多いように思えたが、関心の深さと温かい人の心を思いやりながらアンケートに臨んで頂いた人が多数あることを思い、数字ばかりの集計の仕事の中にもぬくもりを感じた。



## 「啓発活動に限りない 期待を寄せて」

〜第二回役員会の報告〜

晩秋から初冬へと移ろう陽ざしの届けられている部屋で会議は進められました。

議題は街頭での恒例の人権啓発活動についてが主でしたが、その他、今年度から大きく変わった啓発センターの組織・運営について、啓発センター設立十周年記念のコラム集の発刊について等々、役員の皆様は活発なご意見を述べられました。

十二月八日の街頭啓発活動には、標語入り卓上ミニカレンダーと「人が人として生きるための権利の大切さ」をやさしい言葉で表わしてあるチラシが配布されました。

ハローランド可児店、可児ショッピングセンター、名鉄パレ西可児店の三ヶ所で実施され、配布する際の細かな心配りなど、経験された先輩の役員さんからのアドバイスはとても貴重に思いました。

その他、人権週間の期間中

には、いろいろな方法で、市民の生活を守るために、また住みよい町づくりの主人公は私たち市民であることを考えさせてくれる事業が展開されていることも知ることができました。

初めて役員という席につきました私は、この会議を通して、可児市の人権啓発センターの役割りの大きさを認識させていただきました。今後は自身身の立っている場から、ささやかでも啓発のための努力をと心を新たにさせていただきます。

人権啓発センター理事

日比野雅子



市内の店舗前で啓発活動する  
役員・推進員のみなさん(H12.12.8)

## 情報交流研修会

人権啓発センターの本年度活動重点は、人権ネットワークづくりです。この研修会は市内で活躍しておられる人権に関わる行政機関や諸団体の皆さんによる情報交流会です。今回は女性・障害者及び子どもの人権問題を取り上げてみました。夫々の立場から貴重なご所見を伺い実りの多い会となりました。以下その要点をまとめてみました。

- ★子どもの人権……虐待行為の続発が気がかり。特に、養育拒否と心理的虐待が問題。
- ★障害児教育……健常児との交流教育が効を奏し、子ども達の間には豊かな感性が育っている。
- ★女性の人権……「らしさ」からの脱皮こそ男女共同参画社会構築の第一歩。
- ★障害者生活支援センターの事業内容の紹介とふれあいの様子など。

この他、子育てなど幅広い話し合いがあり、最後に人を思いやる心こそ人権尊重への道とい

うことばで締めくくられました。  
(文責・事務局渡辺)



左から酒向三冬さん・加藤晴子さん・小山育代さん  
杉山強一さん・司会(渡辺)

## 編集後記

★「人権の世紀」開幕!

★人権啓発センター創設10周年の年!

市民の皆さんの温かいご声援を受けて人権の啓発活動満10歳を迎えました。新世紀の開幕と共に、新たな気持ちで住みよいまちづくりと豊かな心づくりに向けて再出発します。これまでに以上に叱咤激励をお願いいたします。